

新幹線協議会「安全集会」②



集会の中では幹総支部の綿貫執行委員長より11月に開催された「国際鉄道安全会議」の提言について報告をしていただきました。

綿貫委員長からは「社長の記者会見で新幹線の車両メンテナンスへの考え方が語られた。この間のJR東労組の運動や国際鉄道安全会議での提言の成果

と考えている。今後は確実に実施されるか検証を行っていきたい」と報告があり、現場から実態を検証し、声を上げて行くことの重要性が語られました。

全体討論では、各現場の実態や発生した事象などを議論しました。また、本部運輸車両部会三ヶ田会長、堀江事務長から在来線職場の現状について報告をいただきました。この議論を通じて、幹在の職場で今まででは考えられない事象が発生している危機感を参加者全員で認識を共有することができました。

まとめとして佐藤事務長より「新幹線の事象が続発している中で責任追求から原因究明ができる職場をつくっていかなくてはならない。現在の状況下で私たち自身も稼ぐことを優先する意識となっていないか？要員問題は安全問題に直結しているというのが新幹線協議会の問題意識である」とまとめがされました。

集会の後には懇親会を行い、職場の現状や安全についてなど仲間同士ざっくばらんに語り合い、懇親を深めることができました。

会社の施策実施に合わせ、「要員が足りない」との悲痛の声が大きくなっています。新幹線協議会はブレることなく「責任追求ではなく原因究明を通じた安全風土の構築」を目指して運動を継続していきます！

**労務管理で安全な職場は決して実現されない！
責任追求から原因究明の風土を職場から創りだそう！！**